

和風会講演会開催の御案内

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。さて、この度下記要領にて「和風会講演会」を開催させていただきます。ご多忙の折とは存じますが、ご出席賜りますようご案内申しあげます。 謹白

日時： 2019年 9月27日(金) 19:00～21:00

会場： ホテル阪急インターナショナル 4F 花風

大阪府大阪市北区茶屋町19-19 Tel 06-6377-2100

～Program～

【一般講演】 19:00～19:30

座長 田上 真次 先生

(大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 講師)

演者 小山 真輝 先生

(大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 特任助教)

「 ～新専門医制度を前向きに捉える～

無床総合病院精神科、精神科スーパー救急、

大学病院精神科の違いとそのおもしろさ 」

【特別講演】 19:30～21:00

座長 池田 学 先生

(大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 教授)

演者 吉村 玲児 先生

(産業医科大学医学部 精神医学教室 教授)

「 うつ病と炎症 」

※会終了後に、情報交換会を予定しております。

※先生ご自身の交通費を、弊社にて実費負担させていただく場合がございます。その際は弊社より、ご施設や共催機関等のルールに則り、個別にご相談させていただきますので宜しく お願い致します。

共催：大阪大学精神医学教室・和風会 / MSD 株式会社

【特別講演：要旨】

うつ病の病態生理は、モノアミン、神経可塑性など様々な仮説が提唱されているが、依然不明である。近年、うつ病とサイトカインとの関連が再び注目されている (Nat Neurosci, 2017; Rev Neuroci 2011)。うつ病患者の血液中や脳脊髄液中の炎症性サイトカインの高値や血液中のCRPの高値などは比較的一致した所見である。脳内のミクログリアが活性化されると炎症性サイトカインが分泌されると、ニューロンに障害を与える。ミクログリアは海馬に豊富であり、分泌される IL1beta, IL6, TNFalpha がうつ病で認められる海馬体積の減少と関連する (Trends in Neurosci, 2019)。最近、Koler-Folsberg らはうつ病・うつ状態に対する抗炎症薬治療の有効性に関する meta-analysis を報告している (Acta Psychiatrica Scand, 2019)。その結果では、標準的な抗うつ薬への抗炎症薬の add-on 治療が有効な可能性が示された。少なくともうつ病のある特定の一群では、抗炎症薬治療が有効であるかも知れない。我々は、うつ病や持続性うつ病では血清 IL6 が高値であり、それは抑うつ状態の程度と相関していること、治療抵抗性うつ病では、非治療抵抗性うつ病と比較して血清 IL6, TNFalpha 濃度が高値であることを報告した (Yoshimura R, et al., 2008, 2010, 2011, 2012, 2015)。さらに血清 IL1beta, IL6, TNFalpha 濃度が脳内の幾つかの領域の体積や神経走行の異常と関連することも明らかにした (Yoshimura R, et al., 2015, 2016, 2017, 2018, 2019)。今回の発表では、うつ病の病態への炎症の関与について我々の報告の結果も交えて考察したい。

【会場アクセス】

